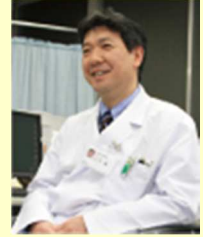
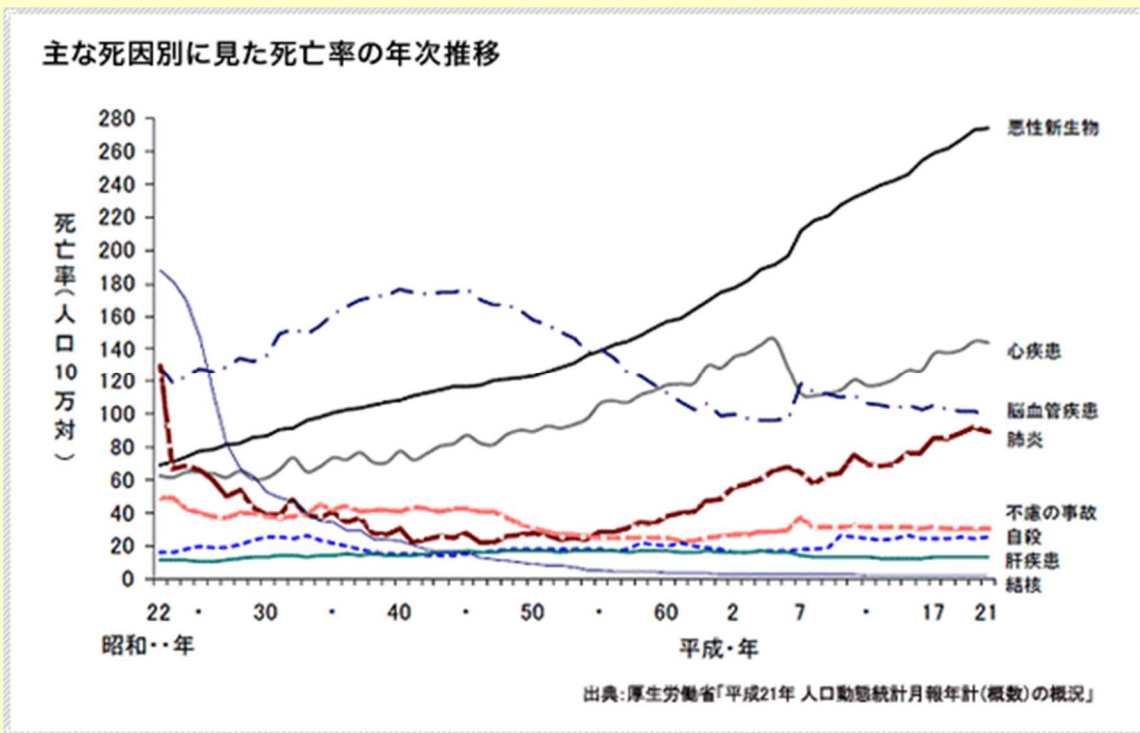


# あなたの大切な人が肺炎で亡くならないために (肺炎球菌ワクチンについて)

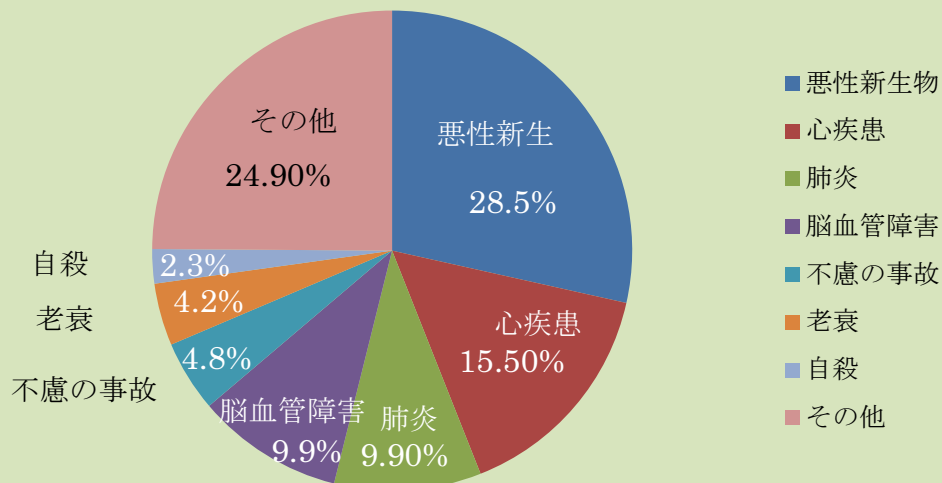


総合内科医 川村 誠

肺炎は現在でも 65 歳以上の日本人の死因第三位とな病気です。



## 平成23年度死因



肺炎は主に細菌、ウィルスなどの感染により発症します。発熱、咳、痰、息切れなどで軽ければ風邪と同じような症状です。しかし重症になってくると全身倦怠感、食欲低下、呼吸困難などの症状が出現します。特に高齢で体力低下、免疫力低下、あるいは心疾患などの合併症がある場合には重症化しやすくなります。

原因菌としては肺炎球菌、インフルエンザ菌、マイコプラズマ-ニューモニアエ、ストレプトコッカス-ミレリなどです。特に肺炎球菌は肺炎の他に、副鼻腔炎、中耳炎、髄膜炎、敗血症などの原因菌となります。

予防としては次のような方法があります。

- ☆うがい
- ☆手洗いマスクの使用
- ☆禁煙、規則正しい生活、持病の治療
- ☆予防接種（肺炎球菌ワクチン、インフルエンザワクチン）



最近テレビでも紹介されている（すこし控えめですが）肺炎球菌ワクチンについて話してみたいと思います。

細菌による感染症は通常抗生物質により治療しますが、最近は抗生物質が効かない薬剤耐性菌が増えているため、ときに難治性肺炎などが問題となります。このこのためワクチン接種による予防が重要となってきます。1回の接種で約5年間は免疫効果は持続すると考えられています。注意が必要なのは、肺炎球菌に対するワクチンであり、肺炎全体の菌に効果があるということではありません。その適応は次のような方などです。

- ☆65歳以上
- ☆老人ホーム、長期療養施設などに入所中
- ☆糖尿病、慢性肺疾患、心疾患、肝疾患などの持病がある場合
- ☆脾臓摘出後などの免疫力低下状態

最近では自治体(市区町村)によっては接種費用の公費助成を行っているところもあります。お住まいの自治体にお問い合わせください。

またインフルエンザについても、流行前のワクチン接種が有効であることは言うまでもありません。肺炎球菌ワクチン接種とインフルエンザワクチンの接種は1~2週間の間隔を空けてください。